

2024 夏が好き！本が好き！！

～先生方が推すこの夏の1冊～

図書館だより特別版① 2024年7月22日号

秋草学園高等学校 図書館



関口校長先生のおすすめは…

① 913.6-7 『リラの花咲くけものみち』 藤岡陽子 || 著 光文社

この物語の舞台は北海道ですが、私は若い頃、北海道で生活することに憧れていました。雄大な自然が魅力で、羊蹄山、十勝岳、阿寒岳などの登山にも出かけ、礼文島や利尻島など島も訪れました。主人公が通う大学は私の親戚がいる野幌にあることにも興味を引かれ読み始めました。主人公は幼い頃に母親を亡くし、継母ともうまくいかず不登校になります。祖母に引き取られペットと暮らすうちに周囲の励ましもあり、獣医師を目指すようになります。北海道の農業大学に合格し、大学の寮での生活が始まります。獣医になるという同じ目標を持つ同級生たち、気むずかしい寮のルームメイト、優しく面倒見のよい先輩らに囲まれ、こうした土地で勉強し、成長していきます。実習や動物病院でのアルバイトでは、獣医という仕事は時には命の選択を迫られ、助けられる動物の命も見殺しにしなければならぬ現実にも葛藤したり、人を好きになることの難しさに悩んだりしながら人として大きく成長していきます。「生きること」について改めて考えるきっかけになる本です。ぜひ一読を！

② S007-サ 『ChatGPT は世界をどう変えるのか』 佐藤一郎 || 著 中公新書ラクレ

ChatGPT は、OpenAI 社が開発した自然言語処理の AI モデル「GPT」を搭載した対話型の AI チャットツールです。このツールのすごいところは、ユーザーが入力した質問に対して、まるで人間と会話しているように自然な対話形式で、それも瞬時に回答してくれるところです。その理由は、人間が書いたインターネット上の文書やコミュニケーションなど莫大なデータを使って AI（人工知能）が学習しているからであり、知識量の豊富さからたいへん役に立つものになっています。また、その能力の高さ、特に優れた言語処理能力から、世界を根底から変える可能性も指摘されています。5月26日の朝日新聞一面には「スパコン使いこなす AI」という見出しがありました。これまで人間が担ってきた仕事が ChatGPT に奪われる、偽の情報も生成される、莫大な電力が消費される等の問題点も指摘されています。いずれにしても今後一層の活用が進む事は確かです。教育の世界においては、「人が学ぶとはどういうことか」、改めて学習観や教育観の見直しが迫られそうです。ぜひ一読を。



中村副校長先生のおすすめは…

① 361-ア 『孤独と居場所の社会学』 阿比留久美 || 著 大和書房

社会は“自由”で“多様”なはずなのに、なんでこんなに息苦しい？能力主義と自己責任、家族の多様化、ジェンダー不平等、承認欲求とアイデンティティ…。現代の閉塞感に風穴をあけ「誰もが息のしやすい社会」を構想する希望の論考。・・・との内容説明があり、読んでみました。図書館にも置いてあります。

私の感想としては、正解が所狭しと陳列されている現代。生成 AI でもすぐに多くの引き出しから答えが引き出せます。しかし人間はそれでも思考します。そうした中でポツンと“私探し”をし、立ち止まって考えることの大切さを紐解いています。

② B913.6-1 『この世界の片隅に』 こうの史代 || 著 双葉社

漫画や映画をもとにしたノベライズ作品。ご存じの方もいることと思う。時代背景と場所は、太平洋戦争の最中、昭和19年広島県呉の町を舞台にし、18歳で嫁いだ「すす」が主人公の作品。悲惨だけでなく、戦時下の日本の文化や力強く生きることへもスポットを当てる。

しかし、被爆地広島は、今年も多く外国人観光客が訪れる場所ではあるが、刻まれた過去の歴史は忘れぬようにしたい。そんなことを思わせる本です。また、映画もどうぞ。



③ 913.6-2 『私のひめゆり戦記』 宮良ルリ || 著 ニライ社

沖縄の修学旅行へ行かれる2年生諸君。本校の図書館で貸し出し可能な本です。

宮良ルリさん、当時16歳の女子学生が体験した沖縄での地上戦の話です。宮良さんは、「ひめゆり部隊」に動員された一人。「ひめゆり部隊」とは、皆さんとほとんど同じ年齢の人たちが、1945年3月23日に沖縄で動員された「看護補助要員」の部隊のことです。正確には「沖縄師範学校女子部」と「沖縄県立第一高等女学校」の生徒222人、教師18人から構成されていました。

戦後79年が経ちました。今年、桔梗祭でSDGsや「平和」をテーマに学習・発表する皆さんもいることと思います。沖縄で若き命を戦果に散らした沖縄戦とは何か、深く考えさせられます。(240人の「ひめゆり部隊」のうち、半分以上の136名が犠牲)

「ひめゆり部隊」の生き残りである宮良ルリさんから私はお話を聞き、改めて日本で唯一の地上戦が行われた沖縄の悲惨な状況に心が痛みました。看護師の資格も経験もない16歳の少女がある日突然、爆撃で傷ついた兵士たちの手当てや看病をする任務に当たる…。その時の戸惑いや不安、そして恐怖は、想像できますか。

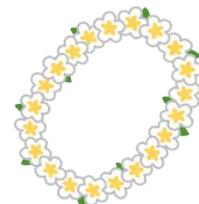
まるで昨日の事のように語る宮良さん。看病をしていた両手を切断された兵士は、既に無くなったはずの手を握って欲しいと懇願、はるか故郷の北海道の母を恋しがりながら目の前で死んでいった…。

私たちはこのことから何を学ばなければいけないのか。沖縄の終戦6月23日を前にして、8月15日を前にして、毎年考えなければなりません。

遠山教頭先生のおすすめは…

002-1 『冒険の書 A | 時代のアンラーニング』 孫泰蔵 || 著 日経BP

「アンラーニング」という副題があるように、これまで自分が常識だと思ってきたこと、学校で教わってきたことなど、ガチガチに凝り固まった思考を一度取り消し、脳に新しい風を送り込んでくれる本です。この本を読んでいると、どことなく縛られた感覚から抜け出ることができ、心を軽くしてくれます。生徒のみなさんも読んでみてください。「そうだよね〜」「そういう見方もできるよね」とほっとするところがあるかもしれません。



植村事務部長代理先生のおすすめは…

913.6-1 『楽園のカンヴァス』 原田マハ || 著 新潮社

スイスの絵画収集家バトラーは、フランス人画家アンリ・ルソーの絵画「夢をみた」の真贋判定に二人のルソー研究者を指名した。一人はニューヨーク近代美術館(MoMA)キュレーター ティム・ブラウン、もう一人は倉敷の大原美術館の監視員 早川織絵。正しく判断できた者に絵の取り扱い権を譲ると言う。調査期間は7日間。ヒントになる物語を読み解きながら、スイス、ニューヨーク、倉敷、さらに20世紀初頭のパリを舞台に様々な絵画や人々が交錯しながら謎を突き詰めていくアートミステリー。最後には驚きの結末が…。

美術館のキュレーター経験もある著者が、湿度や匂いまでも感じられるような文章で絵画を描写します。絵画や画家に詳しくなくても絶対楽しめ、読後はルソーやピカソの絵画はもちろん、美術館のキュレーター(学芸員)という仕事にも興味が湧いてくるでしょう。

秋野先生のおすすめは…

B913.6-4 『おいしいコーヒーのいれ方 シリーズ』

村山由佳 || 著

集英社文庫

1994年から2021年まで26年間続いた恋愛小説です。

いろいろ考えさせられます。



伊久美先生のおすすめは…

① 913.6-ナ 『流浪の月』

凧良ゆう || 著

東京創元社

「わたしたちはおかしいのだろうか。その判定は、どうか、わたしたち以外の人がしてほしい。わたしたちは、もうそこにはいないので。」(本文より)

半透明の氷砂糖みたいな声で話しかけてきた青年と、夕食にアイスを食べる女の子の話です。一人になれるところで読んだ方がいいかもしれません。

② B913.6-タ 『下妻物語 ヤンキーちゃんとロリータちゃん』

嶽本野ばら || 著

小学館

「あたい、お前みたいなチャラけた軟派な女、大嫌いなんだけどさ、スゲー、お前に対して腹立つこと一杯あるんだけど、お前と居ると、妙に気持ちいいんだよな。趣味とか、全然合わないし、お前のこと、全然理解できないんだけど、ずっと話しても何故だかわざくないんだよな。それは多分、お前があたいには解らないお前なりの筋を通しているからなんだろうな」(本文より)

タイトルの通り、絶妙な田舎の茨城県下妻市に住むヤンキーとロリータの話です。実写映画もリバイバル上映されるそうなので、ぜひそちらも。

稲本先生のおすすめは…

① 726-ナ 『泣きたい夜の甘味処』

中山有香里 || 著

KADOKAWA

1つひとつの話それぞれで発せられる言葉とレシピがさりげなく心によりそってきます。

「明日からまたがんばろう！」と思わせてくれる作品です。

② 913.6-マ 『52 ヘルツのクジラたち』

町田そのこ || 著

中央公論新社

「きっとだれに話しても理解してもらえないだろう」というときに読むと、少しだけ救われた気持ちになる作品です。

映画を見た人にもぜひ読んでほしい1冊です。

稲荷先生のおすすめは…

S778-キ 『一切なりゆき』

樹木希林 || 著

中央公論新社

女性として、人間として 素敵な人生の送り方について考えさせられる本です。

「モノをもたない、買わない」

「おごらず、他人と比べず、面白がって、平気にいけばいい」

なるほど、と思う言葉がたくさんあるので是非読んでください。



大庫先生のおすすめは…

B913.6-7 『羅生門・鼻』 芥川龍之介 || 著 角川文庫

一年生で学ぶことが多い芥川龍之介の「羅生門」。教科書で学んだ人もまだ読んでない人も、芥川龍之介の代表作を夏休みにもう一度読んでみてください。自分勝手な登場人物の心の動きが一度目に読んだものと、もう一度読み返した時とでは理解の深さが違って来るかもしれません。

また、もう一冊「羅生門」と一緒に読んでもらいたいのが同じ芥川龍之介の「鼻」です。高僧禅智内供の心理のかわいらしさと周りの人たちの自分勝手な心理が描かれています。

「羅生門」も「鼻」も、芥川龍之介がエゴイズムの世界を描いた作品です。ぜひとも二冊セットで読んでください。



太田興一先生のおすすめは…

B913.6-7 『戦争童話集』 野坂昭如 || 著 中公文庫

作家、野坂昭如さん（1930～2015年）。野坂さんといえば、彼の実話をもとに描かれた「火垂るの墓」が有名である。戦争で両親を失った幼い兄と妹が必死で生きようとしたが、悲劇的な結果を迎えてしまう。アニメ映画や実写のドラマにもなり、思い浮かべただけで……、もう、とても耐えられない。

さて、『戦争童話集』は彼が戦争体験を子どもにもわかりやすく伝えようとした作品である。昨年、「朗読の世界（NHK）」で紹介され、さらに「命のことを考え、若い人たちにつなげていきたい」との思いを持った方々により舞台上演もされた。

終戦の日（昭和20年8月15日）から始まる12の童話は、登場する動物たちにほっこりしたくなるが、それを許さない時代背景がそこにある。戦争がいかに悲惨で残酷な日常をもたらすのか、今を生きる私たちに理解することは難しいかもしれない。だからこそ、この夏にぜひ読んでもらいたい。あの日から79年目の夏が間もなくやってくる。

大畠先生のおすすめは…

H369-7 『見えないボクと盲導犬アンジーの目もあてられない日々』

栗山龍太 || 著 小学館

本校音楽部が今年の2月にコラボさせていただいた全盲の教師であり、シンガーソングライターの栗山龍太氏のコミックエッセイです。栗山氏の人柄がにじみ出ている内容です。ぜひ読んでください♪



荻野先生のおすすめは…

B913.6-7 『世界でいちばん透きとおった物語』 杉井光 || 著 新潮社

自分はミステリ作家：宮内彰吾の息子だったと彼の死後に知らされ、宮内家の長男とともに死の間に彰吾が執筆していたという『世界でいちばん透きとおった物語』の遺稿を探すことになる、という物語。

『透きとおる』の意味がわかると衝撃が走ります。しかも、電子書籍ではなく、紙書籍でないと、そのすごさは伝わりません。ぜひ紙の本で読んでみて下さい。

奥村先生のおすすめは…

B134-ニ 『ハローキティのニーチェ 強く生きるために必要なこと』

朝日文庫 || 編 朝日新聞出版

私たちはどう生きていけばよいのか—という問いに真剣に向き合った哲学者ニーチェ。彼の考え方を知る旅に、ハローキティと一緒に掛けませんか？明日から今の自分をありのままに受け止めて、物事を前向きに捉えられるようになる、そんな考え方のヒントが詰まっています。

私のお気に入りの言葉！

『生きるとは、その一瞬一瞬、真剣に前へ進む方法を探すこと』

『誰よりも、何よりも、自分をちゃんと愛してあげよう』



乙供先生のおすすめは…

B335-ㇿ 『論語と算盤』 渋沢栄一 || 著 角川ソフィア文庫

道徳と経済の両立できる人生を歩むためにどんなことが大切か書かれた本、日本経済の父と呼ばれる渋沢栄一の人生哲学がたくさん書かれています。

経済と聞くと難しく見えがちですが、シンプルに「ひとはどうあるべきなのか」についてとても勉強になるのでぜひ読んでみてください。

鹿島先生のおすすめは…

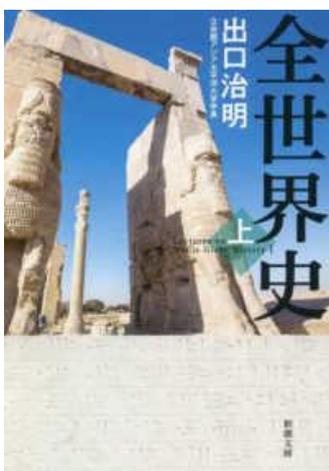
159-カ 『うまくいかない日は、甘いケーキをひとつ』 Caho || 著 KADOKAWA

立ち止まったとき、つまずいたとき、迷ったときに必要なのは「甘いお菓子」かもしれません。本を読みながら、「甘いお菓子」を食べましょう。そして、優しい色合いとイラストがあなたの心を癒してくれます。

加藤先生のおすすめは…

B209-デ 『全世界史（上巻・下巻）』 出口 治朗 || 著 新潮文庫

筆者の出口さんは、本職は学校の先生でもなく大学の研究者でもありません。一ビジネスマンで経営者である出口さんが書いた世界史は、タイトルどおり古代文明から現代史までを、常に全世界を俯瞰しながら記述した歴史本です。世界史の教員でありながらページをめくるたびに新しい知識・視点が得られ、“目からうろこ”が何枚も落ちてしまいます。この歴史本は、歴史好きな人もそうでない人も、わかりやすく楽しみながら読み進めることができます。みなさんもこの夏、“目からうろこ”を落としてみてはどうですか。



金井先生のおすすめは…

『地球の宝を守れ 科博コレクション図鑑』 国立科学博物館図鑑編集委員会 || 著 (非売品)

※本図鑑は非売品です。興味がある、見てみたい、という者は金井までお声がけを。

上野にある国立科学博物館をご存じだろうか？いったことはある？

そんな科博が、エネルギー料の高騰、コロナ禍による入館者制限、諸般の事情で財政難に陥りクラウドファンディングを始めたのは2023年8月7日のこと。目標金額は1億円。3か月間でいくらの支援が集まったと思いますか？

紹介する図鑑はその返礼品であり、非売品です。なんと180ページ超のボリュームで圧巻。重い。気持ちが重い。館長らの対談からは科博に課せられたミッションと今回の困難に対する想いが、そして研究員や職員はそれぞれの『最推しコレクション』を冷静な文調で引くほど熱く語ってくれています。一気に読むとあてられてしまうので少しずつの摂取がおすすめ。

科博は高校生入場料無料(常設展)。学校で座って学ぶだけでなく、自ら足を運んで実物と触れ合い、視て学ぶこともよい刺激になりますよ。

夏休みは時間があるな。行ってこい。感じてこい。

(図書館より : 入手できない本のため、下記の関連本を展示しています)

069-ハ	『首都圏博物館ベストガイド 文系編』	博物館探訪倶楽部 編	メイツ出版
406-ナ	『国立科学博物館のひみつ 地球館探検編』	成毛真 著	ブックマン社
460-リ	『〈標本〉の発見 科博コレクションから』	国立科学博物館 編著	国書刊行会

上村実紅先生のおすすめは…

913.6-7 『六人の嘘つきな大学生』 朝倉秋成 || 著 KADOKAWA

2年前?くらいに、図書館で見かけてずっと気になっていた作品がついに文庫本になって登場してくれました(ハードカバー本が嫌いなので……)!!『六人の嘘つきな大学生』は就職活動をテーマに、人の見ている部分がいかに狭小かを描いた作品だと感じました。読みながら、登場人物に対して「あ~この人嫌いだな~」「最低だな~」と思っても、そんな気持ちが恥ずかしくなるような素晴らしい一面が見えてきたり……。一つの事実が分かると、登場人物への評価がまるでオセロのように黒から白にパチパチと変わっていくような感覚で、自分も含めいかに人間のものの見方が狭いかということを感じました。「就職活動」という企業も学生も、自分たちの良いところしか見せない。そしてお互いにそれしか信じるものがない。そんな状況に放り込まれたときは、想像するよりもずっと怖いのかもかもしれません……。ね!蛇足ですが、旺文社のキャッチコピーに「学ぶ人は、変えてゆく人だ。」という言葉があります。この夏休みは本を読み、多くを学び、ぜひ自分の世界を変えてみてください。

木村先生のおすすめは…

913.6-7 『世界のまんなかで笑うキミへ』 相沢ちせ || 著 スターツ出版

高校2年生の美術部員の理央は、絵画コンクールで賞を逃し、スランプに陥っていた。ある日、学年の人気者の颯(そう)と知り合いになり、絵を通して距離を縮めていった。颯がもうすぐ転校することを知った理央は、颯のいる風景を描いていこうとするが、スランプのため一向に描くことができなかった。そんな折、ふと、颯と数年前に出会っていた記憶が蘇ってきた。颯の本当の姿とは一体…。そして、理央の思いは伝わるのか…。秘密が明らかになるラストは感涙必死!ぜひ読んでみてください!



『夏が好き!本が好き!!』図書館だより特別版② は、明日7月23日配信予定です。